

あのときはどうも

いぜん せ わ がいこくじんりゅうがくせい ひき さいかい
以前お世話をした外国人留学生に、久しぶりに再会することがあるが、
ほとんどの場合、彼らは世話になった礼を言わない。礼を言われることを
きたい にはほんじん なに
期待するほうがおかしいのかもしれないが、なんだかさびしい。日本人は何か
せ わ ちょくご れい の ご あ せんじつ
世話になった直後にお礼のことばを述べ、その後も会うたびに、「先日はあ
りがとうございました」「あのときはどうも」「いつぞやはお世話になりまし
く かえ い ふつう おも にはほんじん しゅうかん
た」などと繰り返して言う。これが普通だと思っている日本人の習慣から
すくと、そのとき一回かぎりのお礼だけではもの足りなさを感じるのも無理
はない。

いっばんてき にはほん いがい おお くに れい いっかい す
一般的に、日本以外の多くの国では、お礼のことばは一回きりで済ます
ばあい おお かんじん かれ けつ おん わす
場合が多いようだ。ただ、ここで肝心なことは、彼らは決して恩を忘れて
いるわけではないということである。それは、ひとたびこちらからお願ねがいご
とをすくと、恐縮きょうしゆくしてしまうほど精一杯せいいつぱいつ尽くしてくれることでもわかる。

にはほん ぎりしゃかい い にはほん でんとうぶんか ぎりにん
日本は義理社会だと言われる。日本の伝統文化をはぐくんできた義理人
じょう たいせつ おも かたち
情は大切にしなければならないと思う。しかし、それが形だけのものにな
おも
ってはならないと思う。

おく もの おも さき かえ かんが
贈り物も、もらってありがたく思うより先にお返しのことを考える。こ

ころから感謝かんしゃの気持ちきもちを伝えるつたはずのお礼れいのことばも、言いい忘れては失礼しつれい
になるという気持ちきもちのほうつよが強くはたらき、二度にども三度さんども繰り返く返すかえ。これら
は、お礼れいをしたり、お礼れいを言いったりするかたちことが形かたちだけのものになってしま
った悪い例わるれいだ。

贈り物おくものをもらったとき、「ありがとう」の一回いっかいきりのことばだけで済すます
わけにはいかないだろうが、まるで物々交換ぶつぶつこうかんのようなお礼れいのやりとりだけは
したくないものだ。

関正昭 南日本新聞 1993年11月16日夕刊より